

RCIJ シラバス

- Syllabus2022 -



認定 RC アドバイザー

改定：2022.10.18

● 講座の目的と到達目標

RCIJ ではリスクコミュニケーションを、「有事の際に内外のステークホルダーと、適切なコミュニケーションを図ること。これを迅速に実現するため、平時より準備を進めること。」と定義しています。

認定講座の目的（ねらい）は平時/有事それぞれにおいて、リスクの可視化と対策を軸に、各専門領域のセッションや人材とコミュニケーションをはかり、広い視野で会社や組織の《危機に対する万全の状態》を実現・維持する人材を育成することです。

● 講座の種類と特徴

基本的な要素を抑えることを目的とした、未経験者でも受講可能な「RC 技能認定第 1 種」と、2 年以上の実務経験を踏まえて、外部に有償でアドバイスできる知識を習得できる「認定 RC アドバイザー」の 2 つの階層による認定資格講座になっています。

● 授業の方法（講義・演習）

全てオンラインによる講座として、質疑応答は事務局（contact@rcij.org）を通して実施します。

● 課題の提出方法と提出期限

講座終了後、受講期限内（アクセス権付与より **120** 日以内）に課題を提出します。

- RC 技能認定第 1 種 : 小テスト（選択問題）
- 認定 RC アドバイザー : レポートまたは小テスト（選択問題）

● 受講条件：受講するために必要な知識とスキル

- RC 技能認定第 1 種 : 未経験者から受講が可能
- 認定 RC アドバイザー : 「RC 技能認定第 1 種」資格保有者、もしくは 2 年以上の実務経験を有し RCIJ 理事による審査を通った者

● 開講日

全8回（全てオンラインにて開講）

※ アーカイブ視聴

● 受講料

317,900 円(税込)

※ 入会金、年会費が別途発生します。

※ 認定 RC アドバイザーの講座は「RC 技能認定第一種」の保持者及び2年以上の実務経験を有する者が対象です。

● 支払方法

クレジットカードによるお支払い

※ 法人支払いのみ請求書による銀行振込が可能です。この場合は事務局までご連絡ください。

※ 当講座を含む認定講座については会員であることが受講の条件となります。

● 受講料と会員会費一覧

区分	受講料(税込)	RCIJ への入会		支払方法
		入会金(非課税)	年会費(非課税)	
個人	¥317,900	¥10,000	¥10,000	クレジットカード決済
学生	¥158,950		¥3,000	クレジットカード決済
法人	¥317,900		中小企業 ¥50,000 大企業 ¥100,000	請求書払い

※企業の区分については、「中小企業基本法」で定められている中小企業の条件を参考に大企業の定義をしています

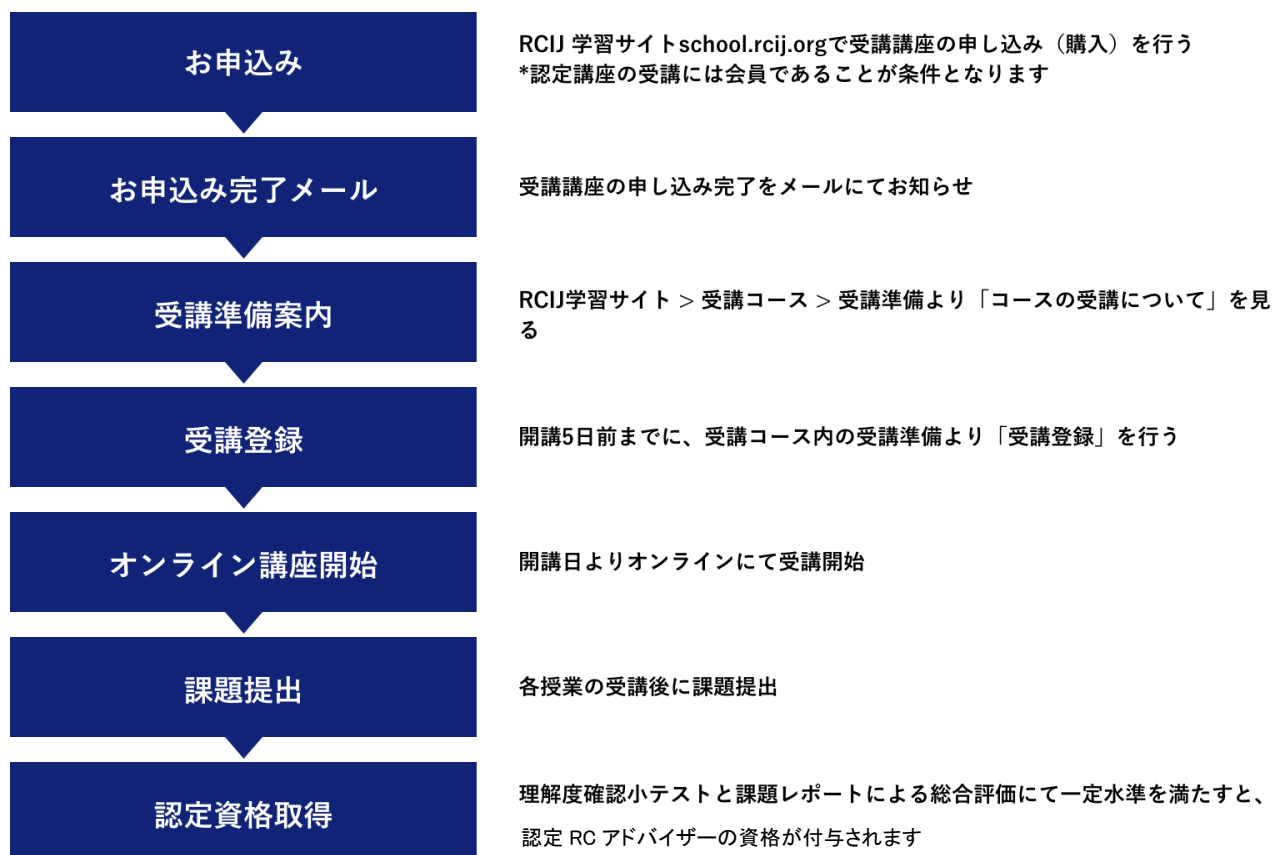
- 認定講座の受講には会員であることが条件となります。
- お支払いが法人であっても、個人会員としてのお申し込みが可能です。
- 法人会員については同一企業で年間5名以上受講される場合や、今後開催予定の技能認定講座以外の講座を社内研修の一環としてのご利用を想定されている場合などにお薦めしております。

以下のケースなどにも対応しております。ご希望の場合 contact@rcij.org までお問い合わせください。

└個人会員として申し込み：会費、受講料ともに法人負担

└個人会員として申し込み：会費は個人で負担、受講料は法人で負担

● 受講から資格取得までの流れ



● 受講環境について



●「認定 RC アドバイザー」 講座カリキュラム一覧

講座名/講師		カリキュラム
1	リスクコミュニケーション 実務 /大杉 春子	リスクコミュニケーションの実務におけるスキルを習得する ・リスクコミュニケーションの意義と全体像 ・レピュテーションコントロールに必要な機能 ・各プロセスにおける具体的な作業例と注意点 ・戦略立案のポイントとケーススタディ
2	危機対応訓練実践 /北見 幸一	リスクコミュニケーションにおいて、有事の際の具体的な危機対応ができるように、訓練の実践における実務を習得する。 ・リスクとクライシス ・不祥事とその対応 ・緊急時のメディア対応 ・危機対応訓練の必要性 ・演習ワークショップ
3	ネット炎上対策の実践 /山口 真一	ネット炎上の予防・対処策について、具体的に実践レベルのスキルを習得する ・予防 ・対処 ・謝罪のポイント ・必要な社内体制
4	企業における Public Policy/Public Affairs の役割について /吉川 徳明	RC で情報開示のプロセスにおけるパブリックアフェアーズの役割についての知見を習得する ・Public Policy/Public Affairs の目的・役割・手段 ・Public Policy/Public Affairs の仕事 (1) ルール・社会的合意へのアプローチ（社内→社会） (2) 社会課題解決へのアプローチ（社内→社会） (3) リスクマネジメント（社会→社内）

講座名/講師	カリキュラム
5 企業経営とリスクコミュニケーション／細窪政	RC において大前提に持っておきたい企業のあり方を整理した上で、コーポレートガバナンス、内部統制について理解を深める。RC にとって必要不可欠な各ステークホルダーの目線を理解することで、それぞれとどのようにコミュニケーションをする必要があるか、リスクコミュニケーターの役割と理想像を習得する。 ・企業経営の目的とリスク ・ステークホルダーの目線 ・コーポレートガバナンスと内部統制 ・リスクコミュニケーターの役割
6 RC における企業の法的責任と対応 /小川 義龍	RC における法務について理解し、法的解決から契約書作成まで、実践の際に活用できるスキルを習得する。 ・法務の位置付け ・法的解決とは何か ・裁判の仕組み ・勝つための契約書
7 BCM の実務とリスクコミュニケーションへの展開 /田代 邦幸	BCM の幅広い活動の中から、短期的にルーチンワーク化すべき業務と中長期的に必要な分析手法について学び、BCM による事業継続力の強化、信頼の獲得、レピュテーション向上のスキルを習得する。 ・BCM の基礎 ・BCM の実務 ・BCM におけるリスクコミュニケーション
8 リスクコミュニケーターに求められる CFO 視点—ケーススタディで考える会社の発展とリスクの変容— /永岡 英則	経営管理を担当するバックオフィス、特に CFO の視点にフォーカスしてリスクを捉える。規模が大きくなり、上場すれば、リスクも多様化する。ケーススタディを交えながら企業の発展とリスクの変容にリスクコミュニケーターとして対応できるスキルを習得する。 第1部 企業の発展過程とリスクの変容 ・ベンチャー創業期から事業会社連結子会社（成長）期、ファンド傘下（上場準備）期、経営統合期までの発展過程とリスク変容

	第2部 大企業のリスク管理と現代的テーマ ・社内へのコミュニケーション（内部統制の視点） ・社外へのコミュニケーション（企業責任の視点） ・非財務情報におけるリスク（社会への責任の視点）
--	--

「認定 RC アドバイザー」 各講義の詳細（1/8）

講座名	リスクコミュニケーション実務
講師名	大杉春子
講師経歴 自己紹介	コミュニケーション戦略アドバイザー/レイザー株式会社 代表取締役 民間企業・地方自治体・省庁などのパートナーとして、PR 戦略の策定から広報物の制作監修まで支援。コミュニケーション戦略における「攻め」と「守り」の両軸から経営広報の施策をサポート。2020 年に専門家らとともに、日本リスクコミュニケーション協会を設立し、リスク管理から危機管理広報までを網羅した、リスクコミュニケーション人材の育成を展開する。
科目のねらい・到達 目標	リスクコミュニケーションの実務におけるスキルを習得する。
講座概要	1. リスクコミュニケーションの意義と全体像 2. レピュテーションコントロールに必要な機能 3. 各プロセスにおける具体的な作業例と注意点 4. 戦略立案のポイントとケーススタディ
課題	選択問題
その他	

「認定 RC アドバイザー」 各講義の詳細（2/8）

講座名	危機対応訓練実践
講師名	北見 幸一
講師経歴 自己紹介	東京都市大学 准教授 博士（経営学）。MBA（経営学修士）。北海道大学准教授、株式会社電通パブリックリレーションズ部長を経て、2017 年 4 月より現職（東京都市大学＝旧武蔵工業大学）。専門は経営学、マーケティング、ブランド戦略、広報戦略。 広報・PR を中心に実務とアカデミズムの架け橋として実践。広報の専門家を育成する日本初の社会人大学院である社会情報大学院大学（現・社会構想大学院大学）の客員教授も兼務。
科目のねらい・到達 目標	リスクコミュニケーションにおいて、有事の際の具体的な危機対応ができるように、訓練の実践における実務を習得する。
講座概要	・リスクとクライシス ・不祥事とその対応 ・緊急時のメディア対応 ・危機対応訓練の必要性 ・演習ワークショップ
課題	レポート
評価基準：評価方法	レポートによる評価
その他	参考書 ●『広報・PR 論 [改訂版] ―パブリック・リレーションズの理論と実際』 ●『企業社会関係資本と市場評価 ―不祥事企業分析アプローチ』 リスクコミュニケーションは経験を積んでいくことで、実践的な危機対応力を組織として身に着けることができる。しかし、実際には危機に直面しない方が良い。ここにリスクコミュニケーションの難しさがある。平常時に危機対応力をいかに磨いておくかが、リスクコミュニケーションには求められる。それが本講座の危機対応訓練の主眼である。

「認定 RC アドバイザー」 各講義の詳細（3/8）

講座名	ネット炎上対策の実践
講師名	山口 真一
講師経歴 自己紹介	経済学者/国際大学准教授/東京大学客員連携研究員 2015 年に慶應義塾大学にて博士号取得。国際大学助教などを経て現職。 専門は計量経済学。ネットメディア論、ネットビジネス、プラットフォーム戦略などを主に研究する。他に、IT 企業顧問、独立行政法人アドバイザー、政府の広報に関する検討会委員等も務める。
科目のねらい・到達 目標	● ネット炎上の予防・対処策について具体的に、実践レベルで理解する。 ● ネット炎上対処について、自分以外の人に対して具体的・論理的に説明できるようになる。
講座概要	・ 予防 ・ 対処 ・ 謝罪のポイント ・ 必要な社内体制
課題	レポート
評価基準：評価方法	レポートによる評価。評価の際は、論理的に書けているか、独創的・実用的な内容になっているかを重視します。
その他	情報社会のビジネスにおいて、ネット炎上は避けて通れない課題であり、多くの企業が頭を悩ませています。その一方で、炎上対策として確立した方法はほとんどないのが現状であり、適切な炎上対策のノウハウには高いニーズがあります。 本講座では、そのようなネット炎上について適切にアドバイスできるようになることを目指します。 参考書 ● 『炎上とクチコミの経済学』（朝日新聞出版）

「認定 RC アドバイザー」 各講義の詳細（４／８）

講座名	企業における Public Policy/Public Affairs の役割について
講師名	吉川 徳明
講師経歴 自己紹介	株式会社メルカリ執行役員 VP of Public Policy 経済産業省で IT 政策、日本銀行（出向）で株式市場の調査・分析、内閣官房で TPP 交渉等に従事。2014 年、ヤフー株式会社に入社、政策企画部門で、国会議員、省庁（警察庁、総務省、金融庁等）、NGO 等との折衝や業界横断の自主規制の策定に従事。2018 年、メルカリに入社し政策企画マネージャーとして、e コマース分野やフィンテック分野を中心に、政策提言、自主規制の策定、ステークホルダーとの対話等に従事。2021 年 7 月に現職。一般社団法人 Fintech 協会 常務理事、特定非営利活動法人 全国万引犯罪防止機構 理事も務める。
科目のねらい・到達 目標	RC で情報開示のプロセスにおけるパブリックアフェアーズの役割について、政治・行政の意思決定過程の知見などを習得する
講座概要	- Public Policy/Public Affairs の目的・役割・手段 - Public Policy/Public Affairs の仕事 (1) ルール・社会的合意へのアプローチ（社内→社会） (2) 社会課題解決へのアプローチ（社内→社会） (3) リスクマネジメント（社会→社内）
課題	選択問題
その他 (参考図書)	1. 『ルールメイキングの戦略と実務』 著者：官澤 康平（法律事務所 ZeLo・外国法共同事業 弁護士） 南 知果（法律事務所 ZeLo・外国法共同事業 弁護士） 徐 東輝（法律事務所 ZeLo・外国法共同事業 弁護士） 松田 大輝（法律事務所 ZeLo・外国法共同事業 弁護士） 出版社：商事法務 発売日：2021/3/3 2. 『競争戦略としてのグローバルルールー世界市場で勝つ企業の秘訣』 著者：藤井 敏彦 出版社：東洋経済新報社 発売日：2012/3/30

「認定 RC アドバイザー」 各講義の詳細（5/8）

講座名	企業経営とリスクコミュニケーション
講師名	細窪 政
講師経歴 自己紹介	グレートアジアキャピタル&コンサルティング合同会社（GACC）代表社員 慶應義塾大学卒業。信託銀行を経て、日本アセアン投資（現日本アジア投資、東証 1 部）入社。2012 年代表取締役社長に就任。2017 年に GACC を設立。経営者向けコンサルティング事業を行いながら、上場企業 3 社・未上場企業 2 社の社外取締役・社外監査役を務める。
科目のねらい・到達 目標	経営者の考え方、コーポレートガバナンス、内部統制等の知識を学び、経営者の関心事を広範囲に知り適切な RC の実現に繋がるスキルを習得する
講座概要	RC において大前提に持っておきたい企業のあり方を整理した上で、コーポレートガバナンス、内部統制について理解を深める。RC にとって必要不可欠な各ステークホルダーの目線を理解することで、それぞれとどのようにコミュニケーションをする必要があるか、リスクコミュニケーターの役割と理想像を習得する。 ・企業経営の目的とリスク ・ステークホルダーの目線 ・コーポレートガバナンスと内部統制 ・リスクコミュニケーターの役割
課題	記述式
その他	リスクコミュニケーターは経営者の代弁者である一方、黒子として経営者による適切な RC を支えるという大切な役割があります。従って、優れたリスクコミュニケーターになるためには、経営者の考え方をよく知り、また経営者に信頼され、日頃から重要な情報を共有される立場になることを目指さなければなりません。本講座がそのきっかけになることを望みます。

「認定 RC アドバイザー」 各講義の詳細（6 / 8）

講座名	RC における企業の法的責任と対応
講師名	小川 義龍
講師経歴 自己紹介	小川綜合法律事務所所長 弁護士 早稲田大学法学部卒業。日弁連代議員・東京弁護士会常議員、広報室嘱託、広報委員会・非弁護士取締役委員会各副委員長など歴任。 サイボウズ株式会社、トヨクモ株式会社各監査役。企業顧問として危機管理・コンプライアンス管理等を指導。
科目のねらい・到達 目標	RC を法務的に考えた場合に、リスクに対する想像力・予想とその予想を回避するための法的措置が重要であるため、予防法務や法令・法制度のイメージを持てるように知見を習得する
講座概要	・ 法律の位置づけ ・ 企業の法的責任と対応 ・ 有事広報に置ける法的ポイント
課題	選択問題
その他	

「認定 RC アドバイザー」 各講義の詳細（7/8）

講座名	BCM の実務とリスクコミュニケーションへの展開
講師名	田代 邦幸
講師経歴 自己紹介	合同会社 Office SRC / 代表 自動車メーカー、半導体製造装置メーカー勤務を経て、2005 年より（株）インターリスク総研などのコンサルティングファームにて、事業継続マネジメント（BCM）や災害対策などに関するコンサルティングに従事した後、独立して 2020 年に合同会社 Office SRC を設立。英国 The Business Continuity Institute（BCI）日本支部事務局としての活動などを通して、BCM の普及啓発に取り組んでいる。国際危機管理学会（TIEMS）日本支部理事。一般社団法人レジリエンス協会幹事（組織レジリエンス研究会座長）。環境経営学会幹事。著書『困難な時代でも企業を存続させる!! 「事業継続マネジメント」実践ガイド』（セルバ出版）
科目のねらい・到達 目標	BCM の範疇で行われるべき幅広い活動の中から、短期的に実施すべき業務と中長期的に必要な施策について学び、BCM による事業継続力の強化、信頼の獲得、レピュテーション向上のスキルを習得する
講座概要	・ BCM の基礎 ・ BCM の実務 ・ BCM におけるリスクコミュニケーション
課題	レポート
その他	

「認定 RC アドバイザー」 各講義の詳細（8/8）

講座名	リスクコミュニケーターに求められる CFO 視点 ー ケーススタディで考える会社の発展とリスクの変容 ー
講師名	永岡 英則
講師経歴 自己紹介	CARTA HOLDINGS 取締役 CFO（現任） CARTA VENTURES 代表取締役就任（現任） 株式会社コーポレートディレクション入社（経営戦略コンサルティング）にて コンサルタントとして、加工食品、製粉、飲料、印刷、機械などの大手企業のプロ ジェクトに参画。全社／事業戦略立案、マーケティング戦略立案、業務体制整備、 販売管理システム構築、新規事業戦略立案、M & A などを経験した後、2000 年 5 月 株式会社アクシブドットコム入社（現 株式会社 CARTA HOLDINGS）、同年 9 月に 取締役 CFO 就任。CFO として創業期から成長期、上場及び経営統合に至るまでの実 務経験を強みとし、投資事業では数多くのベンチャー企業へアドバイス及び成長支 援を実施。豊証券株式会社にて社外取締役も務める。
科目のねらい・到達 目標	本講義では、経営管理を担当するバックオフィス、特に CFO の視点にフォーカスし てリスクを考える。規模が大きくなり、上場すれば、リスクも多様化する。社会か らの要請も含め、実際に使われている手法も合わせてお話しする。また、抽象的/論 理的な理解よりも、実感を持っていただきたく、実際の企業のケースに基づき講義 する。
講座概要	RC のプロセスにおいて CFO の視点から、会社の発展とリスクの変容などをケース スタディで知見を習得する 第 1 部 企業の発展過程とリスクの変容 ・ベンチャー創業期から上場期、経営統合期まで 第 2 部 大企業のリスク管理と現代的テーマ ・社内へのコミュニケーション（内部統制の視点） ・社外へのコミュニケーション（企業責任の視点） ・非財務情報におけるリスク（社会への責任の視点）
課題	企業経営の観点から、オフェンシブなリスク、ディフェンシブなリスクの例を一つ ずつ挙げ、それぞれにどう備えるか、あなたの考えを述べよ。